

檜田城

※掲載している御城印が販売終了している場合もございます。

御城印取扱場所
ブックマンズアカデミー



檜田城は、蒼海城や勝山城の支城であり、八幡川の左岸5mの台地上に200m四方に築かれた中世の遺構である。勝山城主関口政次の次男福島政則の居城であったといわれている。天正12年(1543年)武田氏によって東覚寺とともに焼き払われたと考えられる。東覚寺の推鐘は武田氏の武将田口左近将監長能等が持ち去り、信州佐久郡田口の新海大明神に再寄進した。暦応元年(1338)鑄造のもので現在は田口の神宮寺に保存されている。※別紙にて説明永禄9年(1566)再度武田勢の攻略により、箕輪城や勝山城とともに落城し、廃城となった。現状は遺構は認め難いが、この地高井郷の歴史を語ることのできる城跡である。※現地案内版より